

## 「贅沢な子育て」

### 育てたいのは子どもの夢!

#### ひとり20万円の壁

来年3月にボストンやブルックリンの子ども博物館を訪問する「ハンズ・オン」プロジェクト。その説明会や工房へお迎えに来られる保護者の方に「行かせたいんですけどね。ひとりいくらかかりますか?」と聞かれる。「そうですね。ひとり20万円は最低いるでしょうね」と答えると、親御さんの顔が一瞬微かに曇るのがわかる。この厳しい経済情勢の中、たしかにアメリカ行きの旅は贅沢なのかもしれない。

#### ボストンは夢物語?

出会いは偶然であった。昨年11月、友人の畳屋さんを通じてボストン子ども博物館のアジア担当マネージャーを紹介してもらった。そして工房の子どもたちの絵や作文を提供したり、日本の子どもたちの生活用品を送ってきた。何度か、そのマネージャーと遣り取りする中で、自然と「ボストンに行けたらいいのね」があいさつ代わりになっていた。でも、それはあくまで愛想のいい日本人のセリフであり、夢物語でしかなかった。

#### 夢を現実に

「せっかくの機会を作品や物品の提供だけで終わらせてええのやろか…」。「ボストンに子どもたちを連れて行き、異文化を体験させたい!」という思いが日増しに強くなっていった。まず受け入れてもらえるのかを打診した。なにせ相手は歴史もあり、世界の子ども博物館のオピニオン・リーダー的な存在である。対して、こちらは一個人の生まれただけのグループ。まともに相手にしてもらえないのが不安であった。ボストン側は「前向きに検討してみる」との返事をくれたものの、こちらの強い思いがメールや国際電話では、なかなか伝わらないのを感じていた。そして、ついに単身アメリカへ乗りこみ、私たちの訪問を決定的にしようとした。

#### 人が集まらない

今年の8月末、ボストンを訪れ直接会って話をすることで、ようやく訪問プロジェクトを立ち上げるこ

ができた。この間の話はすでに、このコーナーでも報告しているので、見てもらえるとうれしい。帰国してからは、企画書を書き、さまざまな方々に協力をお願いし、プロジェクト内容の充実を図ってきた。しかし、費用負担のことや最近、またも浮上してきたテロ問題も微妙に影響して、説明会を開いても思うように人が集まらない現実があった。

#### プロジェクト始動

少々落ち込むこともあったが、超プラス志向の妻のおかげもあり、今できることから準備を進めている。コミュニケーションのおもしろさを学ぶ講座や京都の文化を見直す講座を11月から始めている。日本の新旧の遊びをボストンの子どもたちにも紹介しようと遊びの講座も予定している。ボストンのパブリックスクール（いわゆる公立小学校）と俳句や絵の交流を始める。和太鼓も演奏するので、ボストンやニューヨークで和太鼓の調達もお願いしている。おかげさまで、現在大人、子どもあわせて約25名の参加が決まっている。

#### 「和童」を発信

12月から和太鼓工房の体制を改めた。人数が増え、レベル差が生じてきたからだ。と同時に名称も「和童」とした。和（日本）の童（子ども）がまずは自分たちの暮らしている日本（京都）の文化や良さを知り、より豊かに生きる力を身につけてほしいからだ。

#### 贅沢な子育て

正直、私の家には借金はあるが金はない。普段、外食もできないし、旅行にも行けない。服や生活用品だって節約して遣り繰りしている。ましてや子どもの欲しい商品を買うために出してやれる余裕はない。しかし、豊かな体験だけには惜しまない。めいっばい贅沢な体験をさせてやりたいと思っている。なぜならそれこそが、子どもたちの豊かな将来への財産になると思うからだ。そんな思いを胸に来年3月、アメリカへ行って来る。